

平成30年度教育行政評価

登米市の教育 通 信 簿

— 平成31年2月1日基準日 —

登米市教育委員会

「登米市の教育 通信簿」

— 登米市の教育行政評価 —

教育行政評価概要

本評価事業は、毎年度2月1日を基準日に調査します。今年度は、評価項目を再検討し、事業区分は前年度と同じ5区分として55項目を設定し、5段階で評価いたしました。

なお、評価項目や目標達成の把握方法などは、教育環境や社会情勢の変化等に対応して、随時、見直していきます。

1 教育行政評価を年1回実施、評価項目は55項目

区分ごとの評価項目数は、以下のとおりです。

○教育委員会：4項目	○教育行政：5項目	○学校教育：22項目
○社会教育：14項目	○社会体育：10項目	

2 市民アンケートには2,085人から回答（前年度は2,043人）

市民皆さんから評価をいただく「登米市の教育チェック」（アンケート）は、教育委員会各課各部署、各教育事務所で実施し、2,085人から回答をいただきました。前年度と比較して、42人（102%）増加しています。

3 総合評価は、5段階評価で「4.11」（前年度は3.94）

5段階評価による総合評価は4.11で、昨年度から若干ではありますが向上しています。

項目別では、「学校教育」が昨年度より向上して4.81と最も高く、次いで「社会教育」も昨年度より向上して4.57、「社会体育」が4.40、「教育行政」が3.60、「教育委員会」が3.50の順となっています。

4 目標達成は55項目中「31項目」（前年度は22項目）

目標が達成できた項目は、「学力向上のための校内研修」や「いじめの発生件数」、「奨学金の申込者数」、「年代に即した社会教育事業数」、「社会体育事業の参加者数」など、55項目中31項目（56.4%）でした。

一方で、「児童生徒の学力」や「協働教育ボランティアの活用」、「安全が確保されている施設」、「教育関係情報の公表」など、55項目中24項目（43.6%）において目標を達成できませんでした。

平成30年度教育行政評価「登米市の教育通信簿」結果

総合評価 (5段階評価)	H30	H29
	4. 1 1	3. 9 4

<基準日：平成31年2月1日>

★ 項目別評価

区 分	H30	H29
教育委員会	3. 5 0	3. 5 0
学校教育	4. 8 1	4. 6 3
社会教育	4. 5 7	4. 2 1
社会体育	4. 4 0	4. 0 0
教育行政	3. 6 0	3. 4 0

★ 5段階評価基準

評価	達成率(調査基準日数値/目標数値)*100
5	100%以上
4	80%以上100%未満
3	60%以上80%未満
2	40%以上60%未満
1	40%未満

★ 目標達成状況

区分	評価内容	目標数値	H30目標 達成状況	H29目標 達成状況	目標達成の把握方法
教育委員会	1 教育委員の意見が、教育行政に反映されるような機会が多く設けられているか	100%	76.0	75.0	教育委員会へのアンケート(「登米市の教育チェック表」/100%、80%、60%、40%)を実施し、単純合算したものを評価した委員数で割る。
	2 意見が自由に交わされる会議の仕組みであり、合議制になっているか	100%	88.0	75.0	
	3 教育委員の研修は、教育委員の意向に沿って行われているか	100%	76.0	82.5	
	4 教育委員に最新の教育関連情報が提供されているか	100%	80.0	80.0	
学校教育	5 児童生徒の学力は全国平均を上回っているか	103 ポイント	95.3	96.4	当該年度の登米市標準学力調査の結果による。全国平均値を100としたときの登米市の平均値を求める。
	6 分かる授業が展開されているか	90%以上	90.8	91.6	学校ごとに全校生徒へのアンケート(「よく分かる=100%」「分かる=85%」「分からない=40%」「ぜんぜん分からない=25%」の区分による)を実施し、全学校の平均値を求める。
	7 問題解決的な学習がなされているか	80%以上	92.2	87.5	学級担任及び教科担任が担当する教科において、問題解決的な学習を行ったかについてアンケート調査を行い、全学校の平均値を求める。
	8 学力向上のための校内研修が行われているか	100%	100.0	100.0	各学校において、登米市学力標準調査及び全国学力・学習状況調査の分析を基に、学力向上のための校内研修を実施しているか調査する。市全体の実施率を示す。
	9 いじめの発生件数は減っているか	100%未満	78.0	81.7	11月実施の「安心して過ごせる学校を目指して」調査による。前年度に対する本年度の発生件数の増減率を求める。
	10 不登校児童の出現率は全国平均を下回っているか	100%未満	98.1	48.0	前年度の全国平均不登校出現率(0.39%)に対する市内の不登校出現率{(不登校児童数/全児童数)×100}を比較する。
	11 不登校生徒の出現率は全国平均を下回っているか	100%未満	113.0	125.6	前年度の全国平均不登校出現率(2.76%)に対し、市内の不登校出現率{(不登校生徒数/全生徒数)×100}を比較する。
	12 児童生徒の問題行動の発生件数は減っているか	100%未満	100.0	59.9	小・中学校別の月例事故報告により算出する。前年度に対する本年度の発生件数の増減率を求める。
	13 児童生徒は、学校が楽しいと感じているか	95%以上	92.1	91.6	11月に実施する登米市いじめ調査の「安心して過ごせる学校を目指して」調査結果による。
	14 家庭学習の時間は全国平均を上回っているか	100%以上	107.7	107.2	全国学力調査及び登米市標準学力調査による。
	15 学校施設の整備は、計画どおりに実施されているか	100%	100.0	80.0	国の定める耐震基準を満たした校舎や屋内体育館、校庭、プール、運動場、遊具等の整備が整備計画どおり実施されているか。
	16 学校は、地域の力を生かしながら地域の皆さんと協力して活動しているか	80%以上	82.3	79.2	教育委員会事務局内に設置したアンケート(「登米市の教育チェック表」/100%、80%、60%、40%)により、来庁した市民に評価してもらい、単純合算したものを評価した市民の数で割る。
	17 学校・幼稚園は、子どもたちが楽しく通え、信頼できる運営がされていると感じるか	80%以上	82.5	80.6	11月に実施する登米市いじめ調査の「安心して過ごせる学校を目指して」調査結果による。
	18 園児の戸外での保育は全体の30%以上を確保されているか	100%	100.0	100.0	幼稚園、小・中学校で行っているアンケート調査に基づき分析する。
	19 就学前園児の基本的な生活習慣が身に付いているか	80%以上	89.9	82.3	幼稚園、小・中学校で行っているアンケート調査に基づき分析する。園児の基本的な生活習慣のうち、「あいさつすることができる」、「人の話を聞くことができる」を集計し、幼稚園の平均値を求める。
	20 園児・児童生徒が幼稚園や学校で生活する上で、安全が確保されているか	100%	92.3	87.0	学校・幼稚園の学校評価結果をもとに全学校・幼稚園の平均値を求める。
	21 適正規模である学校の比率は向上しているか	100%以上	100.0	100.0	全学年を通じて2クラス以上(小学校は24クラスまで、中学校は18クラスまで)である学校数の全学校数に対する割合を、前年度と比較する。
	22 奨学金の利用申し込み者が、前年度より増加したか	100%以上	120.0	93.3	奨学金の利用申込者数を前年度と比較し、増減率が100%を超えること。
	23 奨学金返還に関し、新たな未納の発生件数が前年度より少なくなっているか	100%未満	66.7	46.7	奨学金返還に当たり、新たな滞納を生まないことが望ましく、新規未納者数を前年度と比較し、その増減率が100%未満であること。
	24 給食の食べ残し量は減っているか	100%未満	102.6	104.7	給食センターに戻る残食総量を前年度と比較し、増減率が100%未満であること。
	25 給食に利用されている地場産品の割合は増えているか	100%以上	101.2	105.9	学校給食実施状況調査による指定週間に係る市内産の使用品目数を前年度と比較する。
	26 給食費の収納率は向上しているか	97%	101.0	101.2	給食システムから現年度分についてデータを抽出して分析する。調査日時点での月別の調定額と未納額を学校別に表示する。納入期限から30日経過している月までを数値として採用する。

区分	評価内容	目標数値	H30目標 達成状況	H29目標 達成状況	目標達成の把握方法
社会教育	27 公民館の利用者は増加しているか	100%以上	104.6	103.2	公民館の利用者数を人口で割り戻して前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか（市民1人当たり公民館利用回数=総利用者数/前年度末人口）。
	28 年代に即した社会教育事業が計画どおり展開されているか	100%	105.1	95.7	事業の実施回数/事業の計画回数
	29 予算措置された事務事業は、計画どおり執行されているか（社会教育事業分）	100%	81.4	80.0	課長レベル、次長レベル、部長レベルの管理職による内部評価（100%、80%、60%、40%）を行い、単純合計したものを評価者人数で割る。
	30 協働教育ボランティアが十分活用されているか	100%	83.8	78.1	ボランティアの活動者数/ボランティア登録者数
	31 図書館図書が市民にどの程度貸し出されているか	82,487冊	88.8	82.7	迫・登米図書館、中田図書室における累計貸出数/目標貸出数（市民1人1冊・前年度末人口を目標値）
	32 多くの市民が図書館を利用しているか	60%以上	69.1	59.8	来館者数/前年度末人口=図書館を利用している市民の割合
	33 放課後子ども教室の登録希望者は全員受け入れられているか	100%	106.5	130.2	登録児童数/定員数
	34 博物館や記念館の展示企画や情報提供などの新たな工夫により、入館者が増加しているか	100%以上	129.0	88.5	歴史博物館、石ノ森章太郎ふるさと記念館における累計入館者数来館者数を人口で割り戻して前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか。
	35 視聴覚教育に関する講習会、研修会の内容は、好評であったか	4.0（5段階評価）	4.7	4.7	研修受講者からのアンケートに基づき分析する。
	36 視聴覚教育に関する教材の活用率が、向上しているか	100%以上	105.6	99.3	教材貸出数を教材保有数で割り戻して前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか。
	37 文化財パトロールの実施回数は、前年度より多かったか	100%以上	100.0	100.0	パトロール実施力所数/前年度パトロール実施力所数
	38 公民館などの施設は、利用しやすいと感じるか	100%	82.6	81.1	教育委員会事務局内に設置したアンケート（「登米市の教育チェック表」/100%、80%、60%、40%）により、来庁した市民に評価してもらい、単純合計したものを評価した市民の数で割る。
	39 公民館などの施設を利用する際、係員から気持ちよい対応がされているか。	100%	84.8	83.2	
40 公民館などの施設は、利用する上で安全が確保されていると感じるか	100%	82.7	81.3		
社会体育	41 総合型地域スポーツクラブの加入者は増加しているか	100%以上	111.9	99.1	加入者数を人口で割り戻して前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか（加入者数/前年度末人口の年度間対比）。
	42 指導者の登録者が目標の500人に達したか	100%以上	125.6	123.8	登録者/目標数値（500人） 登録予定者（体育協会、スポーツ少年団、体育指導委員、体育振興員、市民）。
	43 社会体育施設は指定管理者制度導入に向けて計画どおり進んでいるか	100%	86.1	80.0	指定管理施設/社会体育施設
	44 スポーツ施設の利用者は増加しているか	100%以上	100.4	107.3	利用者数を前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか（利用者数/前年利用者数）
	45 社会体育事業の参加者が増加しているか	100%以上	102.1	68.2	利用者数を前年度と比較し、その増減率が100%を超えているか（参加者数/前年参加者数）
	46 社会体育事業は、各年代が参加できる内容になっているか	80%以上	100.0	100.0	スポーツまつり、ふるさとスポーツ祭、スポーツ講演会、市民運動会においての事業内容が年代（10代、20代、30代、40代、50代）に対応した実施となっているか、その実施率を評価。
	47 予算措置された事務事業は、計画どおり執行されているか（社会体育事業分）	100%	80.0	85.0	課長レベル、次長レベル、部長レベルの管理職による内部評価（100%、80%、60%、40%）を行い、単純合計したものを評価者人数で割る。
	48 体育館などの施設は、体の不自由な人にも利用しやすいと感じるか	100%	76.5	75.4	教育委員会事務局内に設置したアンケート（「登米市の教育チェック表」/100%、80%、60%、40%）により、来庁した市民に評価してもらい、単純合計したものを評価した市民の数で割る。
	49 体育館などの施設を利用する際、係員から気持ちよい対応がされているか	100%	82.4	80.5	
	50 体育館などの施設は、利用する上で安全が確保されていると感じるか	100%	80.4	79.3	
教育行政	51 教育関係の事業やお知らせなどの情報が、十分に知ることができているか	100%	76.6	75.6	教育委員会事務局内に設置したアンケート（「登米市の教育チェック表」/100%、80%、60%、40%）により、来庁した市民に評価してもらい、単純合計したものを評価した市民の数で割る。
	52 教育委員会は市民の声を傾け、思いやりのある対応をしていると感じるか	100%	75.7	75.3	
	53 教育行政は事業の推進に当たり、連携が図られ、一体となった取り組みをしていると感じるか	100%	81.3	85.0	課長レベル、次長レベル、部長レベルの管理職による内部評価（100%、80%、60%、40%）を行い、単純合計したものを評価者人数で割る。
	54 事業実施に当たり、事務処理が効率よく進む提案や取り組み、新たな工夫などがなされているか（教育総務課所管分）	100%	81.3	77.5	
	55 事業実施に当たり、事務処理が効率よく進む提案や取り組み、新たな工夫などがなされているか（学校教育課所管分）	100%	80.0	80.0	